

山の学習支援事業プログラムの実施例

対象プログラム	No.3 身近な樹木調べ No.10 森林入門
---------	----------------------------

学校名	高知市立久重小学校
学年・生徒数	15名 (4・5年生)
実施場所	株式会社相愛 研修棟、近くの野原と森
目標	里山における森林管理について学ぶ
実施教科	総合的な学習
関連教科	社会科、理科
準備物	児童…筆記用具、タブレット、水筒、帽子、手袋 学校…虫よけスプレー、救急セット、カメラ、採取した植物を保存(貼る)画用紙など 講師…座学用資料、PC、プロジェクター、スクリーン、剪定バサミ、ネイチャーゲーム用アイテムなど

実施項目	講話、植物や樹木の観察と採取、ネイチャーゲーム
対象プログラム	No.3 身近な樹木調べ No.10 森林入門
所要時間	講話 30分程度 (里地里山とは) 体験 90分程度 (植物や樹木の観察、ネイチャーゲーム) まとめ 90分程度 (採取した植物等の確認、講話)
実施内容	<p>・<u>講師挨拶、講話</u></p> <p>研修棟に集まり、講師が挨拶した後、学習のねらいやスケジュールの説明をした。講師はスクリーンに参考資料や画像を映して、里山と森林整備の必要性等について講話をした。株式会社相愛近く(所有地)の画像を見せ(①手入れされている草地 ②手入れされていない草地 ③人工林 ④自然林)、どのような違いがあるか、各所で何種類の植物が採取できそうか、など問いかけた。</p> <p>・<u>ネイチャーゲーム(カモフラージュ)</u></p> <p>スタッフが予め近くの草地に人工物を隠しておき、児童が一人ずつ指定されたエリアを歩きながら人工物を探していく。人工物は小さな動物の置物など計4個だった。このゲームは、自然界の保護色などを知る、観察力を高める、などの効果がある。後の植物調査に向けて見る力を養うことにつなげている。</p> <p>・<u>植物と樹木の観察、採取</u></p> <p>児童はタブレットを持ち、軍手を着用、虫よけスプレーをして、4班に分かれて整列した。各班に講師が1名ずつ配置され、教員も同行した。</p> <p>講師が、植物採取の方法や注意点を説明(触ってはいけない植物の確認、へビやハチに遭遇した場合の対処など)した後、各班が上記①～④の場所に分かれて徒歩で移動した。</p> <p>児童は、各所で植物を採取し、画用紙(A3サイズ)にテープで貼り付けた。採取した植物、気になった樹木や風景などをタブレットで撮影した。途中で場所を交代した。</p>

・振り返りとまとめ

研修棟に戻り、各班が採取した植物等を確認した。40種類ほどの植物等が採取された。各所にどのような植物が生えていたか、植物の数が多き場所と少ない場所、手入れされている所とされていない所の違いなどを話し合った。

最後に、講師がまとめの講話を行った。講師が子ども向けにわかりやすくイラストなどを用いて、「人が適正な管理をすることで健全な自然が保たれ、人と自然が共生する里地里山が維持される」ことなどを説明した。

実施風景



補足
その他、プログラムの
特徴

・講師は県内で自然環境調査を行っている方々で、生物多様性こうち戦略推進リーダーや環境カウンセラーなど環境学習や生物多様性に関する資格を持つ専門家です。

・計画書上の「学習のねらい」は「里地里山の減少は経済的観点かつ生物多様性の観点からも対策が急務であり、里地里山と森林環境保全の必要性を子ども達に理解してもらおう」とされており、少し難しい課題ではないかと思われたが、講話も絵や図を活用してわかりやすく説明されており、児童だけでなく教員にとっても大変勉強になったとの感想だった。

・植物や樹木の名前は、講師が口頭で伝えた。今回は名前を付けることを目的とせず、児童が自分達で「種類を数える」ことを重視したとのことだった。

・山の学習支援事業の補助金限度額等制限はあるが、(1)学校が総合学習等で取り組む事業と(2)山の一日先生を派遣する事業を併用することでより充実した学習ができる。(重複は不可)